



津島市は、海拔ゼロメートルによる洪水・液状化・東海地震等の大地震、という3つの災害が想定される。本案は、洪水対策としてピロティ・液状化対策として地盤改良・大地震対策として制震構造を配備した構造システム、「ツシマフレーム」による防災・減災住宅である。ツシマフレームは昔ながらの水路と結びつき、津島らしいまちづくりも可能にする。防災・減災のための仕組みが、日常をより豊かにしてくれる住宅である。(鈴木宏昌)

【審査委員講評】

難波和彦審査委員長

鉄骨造ピロティによる洪水対策、スキー状基礎と再度パイルによる液状化対策、制震鋼板を用いた木質構造による地震対策など、徹底した技術的解決にもとづいた「ツシマフレーム」の提案である。プロトタイプの提案と具体的な敷地への適用という提案性にも説得力があるが、やや図式的な提案に止まっている点が惜まれる。

朝岡市郎審査委員

防災・減災に耐える間取りを自由にデザインできる鉄骨と木造の混構造のフレームが合理的に提案されている。津島の地盤や災害時に予測される被害を十分に配慮されている。経済性に少し疑問が残るが他用途に活用が可能な提案である。

生田京子審査委員

エンジニアリングに重きを置いた内容で、災害に抗する構造フレームとその組み合わせによる住戸パターン、水路の護岸処理など、アイデア満載の提案でした。

川崎浩司審査委員

洪水、液状化、地震をキーワードに、フレームを導入・活用した凸屋根タイプと、バタフライタイプの2つの構造形式を提案しており、地震・浸水対策に独自の工夫が施されている。

清水裕之審査委員

防災・減災ハウスを系統的に解いた案として、具体性があり、分かりやすかった。しかし、津島らしさをデザインとしてどう扱うか、また、外部空間との接点としての1階ピロティ下、およびその周辺の魅力が乏しいことが気になった。用水付近のランドスケープとピロティとの関係を積極的に設計してほしかった。

日比一昭審査委員

海拔ゼロメートル地帯の住宅を、洪水被害を考慮し1階をピロティとしたこと、地震対策として接合部を鋼板による制震システムを用いたことは評価したい。ただ、鋼板のデザイン性やサンドパイルのコストパフォーマンスには疑問が残る。さらにピロティが連続することを活かした提案、高齢者への配慮など、もう少し踏み込むとよかった。